

母校の今、そして同窓会の今

東京都同窓会副会長 高山 士

生きとし生けるもの全てが澁刺と「命」の営みを繰り広げる春。殊の外、新緑が眩しい四月三日、母校日本体育大学は、東京世田谷キャンパス「メインアリーナ」に一八三四名の新入生を迎え、厳肅かつ盛大に入学式が執り行われた。顧みれば、昭和二四年新制大学としての第一回入学式では、一〇〇名足らずの「終戦後の若者」を迎えての再スタートが、今では、新学部の新設・保健医療学部・第一回生一八七名を加え、体育学部・児童スポーツ教育学部・短大保育専攻・そして大学院、そのスケールの大きさは隔世の感を禁じ得ない。

昨今の少子化による就学人口の減少、国公立大学が七四〇校余りという現実。そして、私立大学の五〇％近くが定員割れという中では、誇らしく正に快挙と言える。また、平成二八年には創立一二五周年を迎えることになる、更なる躍進が期待される。これも一重に大学を牽引する理事長・学長の強いリーダーシップに加え、後押しする同窓の母校へ寄せる想いもこの結果をもたらしたものと考える。

さて、同窓会に目を転じれば、時代の推移と考えるべきか、あるいは価値観の変化・多様化がそうさせるのか、どちらの同窓会も影が薄くなりつつあることは否定できない。

あの貧しかった時代、苦しかった時代、助け合い、励まし合った時代が根底にあったが故に同窓の「絆」は強固であったと思う。また、世代交代によって同窓会の姿が変化し運営が困難を極めていると聞く。「あゝ玉杯に」の旧制一高、「紅萌ゆる」旧三高なども組織の維持が不可能になり解散したとメディアが伝えている。古き良き時代、肩を組み涙した時代はもう過去のものとなったのか残念でたまらない。

あの惨禍、東日本大震災以降急に広がった「絆」という言葉、これは同窓会の精神にも通じるのではと思う。正に、断つに忍びない恩愛・繫縛が人に薄くなつてきて

いるのでは、と憂えるのだが・・・。

しかし、そのような環境の中にあっても母校のお膝元でもある東京都同窓会は、多くの有志の絆に支えられながら、役員は会員の把握、乏しい予算の配分・行事の計画・親睦・研修会など多彩な行事運営のために時間を割き、絆を深めようと苦心している。特筆すべきは、大学入学時八〇％に及ぶ学生が教員志望とか。その学生の希望を生かすために立ち上がろうと、既に教育実習の事前指導、実習を実施する中学や高校への訪問指導などを五三名の同窓で二三五名の学生の指導をしている。加えて、学生の夢を実現させるために中学・高等学校の教員となるための「東京都教員採用候補者選考受験対策講座」を開催するなど東京都同窓会は後輩のためにも汗している。今後は、教員のみならず公務員・民間企業に従事を希望する学生にも同窓の力をお借りして夢実現のために奉仕する覚悟である。どうか同窓のご支援ご参加を願うものがあります。



大学は今

本学は、この三年間で大きく様変わりしました。創立一二二年にして初めて新しい学部児童スポーツ教育学部、創立一二三年にして保健医療学部が新設され、子供からお年寄りまで一貫して日本人の健康維持に大きく貢献していく大学となりました。[（詳細につきましては本学のホームページをご覧ください）](#)

また先日平成二六年六月四日「スポーツアカデミー形成事業」の委託大学に採択されました。文部科学省が二〇二〇年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国際貢献策として「スポーツ・フォー・トウモロ」プログラムの一環として実施するものです。

この事業は、オリンピックの普及とスポーツ医学研究の推進を図るため国際オリンピック委員会（IOC）関係者など国際的なスポーツ関係者の招聘、次世代の国際スポーツ界の核となる人材の育成の受け入れ・養成を推進するための国際的な中核拠点を我が国の体育スポーツ系大学群と各国の体育・スポーツ系大学でのネットワークにより構築することを目的とするものです・・・[（詳細は文部科学省のホームページをご覧ください）](#)

《オリンピズム》とは、スポーツを通じて心身を上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解し合うことで、平和でより良い世界の実現に貢献することを指す。スポーツの実践を通じて若者を教育し、平和でより良い世界構築に貢献するために国際オリンピック委員会（IOC）が推進している運動。

《関東女子同窓の集いが行われました》

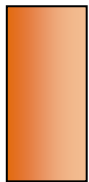
第三七回を迎えた関東女子同窓の集いが、五月二五日にシーサイドホテル芝弥生会館で全国同窓会会長・常務理事・副学長・関東同窓会会長にご来賓としてご出席いただきました。また、本学卒業の元東京オリンピック体操選手を始め、九五名の同窓がご出席され、行われました。関東を始め、静岡、近畿、遠くは香川・青森からも参加され、仲間と共に青春時代を懐かしんでいました。

また、今回の集いでは世界の舞台で活躍され「エレガンス賞」を受賞した田中理恵さんを迎え「美・輝き・エレガンスー理恵スマイルを支えたもの」と題して講演をしていただきました。オーラの出ている田中選手の講話から元気をいただくことができました。来年も関東女子同窓の集いを五月末の開催を予定しています。卒業年度の連絡係の方より通知が参りますので、卒業年度ごと連絡を取り合つてご出席ください。

《寄贈》

「重さ一トンの緞帳」
名古屋の御園座の美しい緞帳を応募多数の中から本学にいただき、間もなく母校のメイン体育館に取り付けられることになりました。

「三越の獅子の頭が本学へ」
日本橋三越が今年創業一〇〇周年を迎えました。それに伴い三越から本学のシンボルでもある獅子の像を一体いただくことになりました。



本号は、東京都同窓会が七月十九日に開催されるため臨時に発行することとなりました。これからは、東京都同窓会広報誌「日体大だまし」の記事の収集や紙面の編集などを委員会の形で行っていきます。主旨に賛同し、お手伝いいただける方が集まりましたので次号からは、本格的に記事を集め、編集し、発行していきます。詳細は次号に掲載します。